

“五感及びイメージ力を鍛える” ワークシート

氏名 _____

ワークの進め方

- ・各テーマ先ず、2～3分 各自で課題実施。1テーマ約10分程度です。
- ・お互いの結果について、グループでディスカッションしてください。
- ・各テーマ毎に、議長、タイムキーパー及び書記設定して進めてください。
- ・道具を順番に使用しますので、各グループで時間調整をお願いします。

テーマ1

- ・各自、目の前の空間にあるものを○□△と色で分類してみる（3つ以上）

色	○	□	△
例 白		消しゴム	

- ・グループ内で、各自気が付いた物を話し合しましょう。書記はまとめてください。
- その後、感想を話し合ってください。

テーマ2

- ・各自、箱の孔に鼻を近づけて何の匂いがするか列挙する。

例 バラの花のような香り

- ・グループ内で、各自の匂いをリストアップした後、箱を開けて確認してください。
- その後、感想を話し合ってください。

テーマ3

- ・各自、箱に手を入れて触った感触からどんな感触かを列挙する。

例 ゴムのような弾力のある感触

- ・グループ内で、各自の感触をリストアップした後、箱を開けて確認してください。
その後、 感想を話し合ってください。

テーマ4

- ・各自、目を閉じて CD の音を聴いて、どんな音がするか列挙する。

例 雨がしとしと降っている音がした

- ・グループ内で、各自が聴こえた音をリストアップした後、CD のレーベルを開けて確認してください。その後、 感想を話し合ってください。

テーマ5

- ① 各自、目を閉じ、鼻をつまみどんな味あるいは食感がするか表現してください。

例 豆腐のような直ぐとろける食感がする。

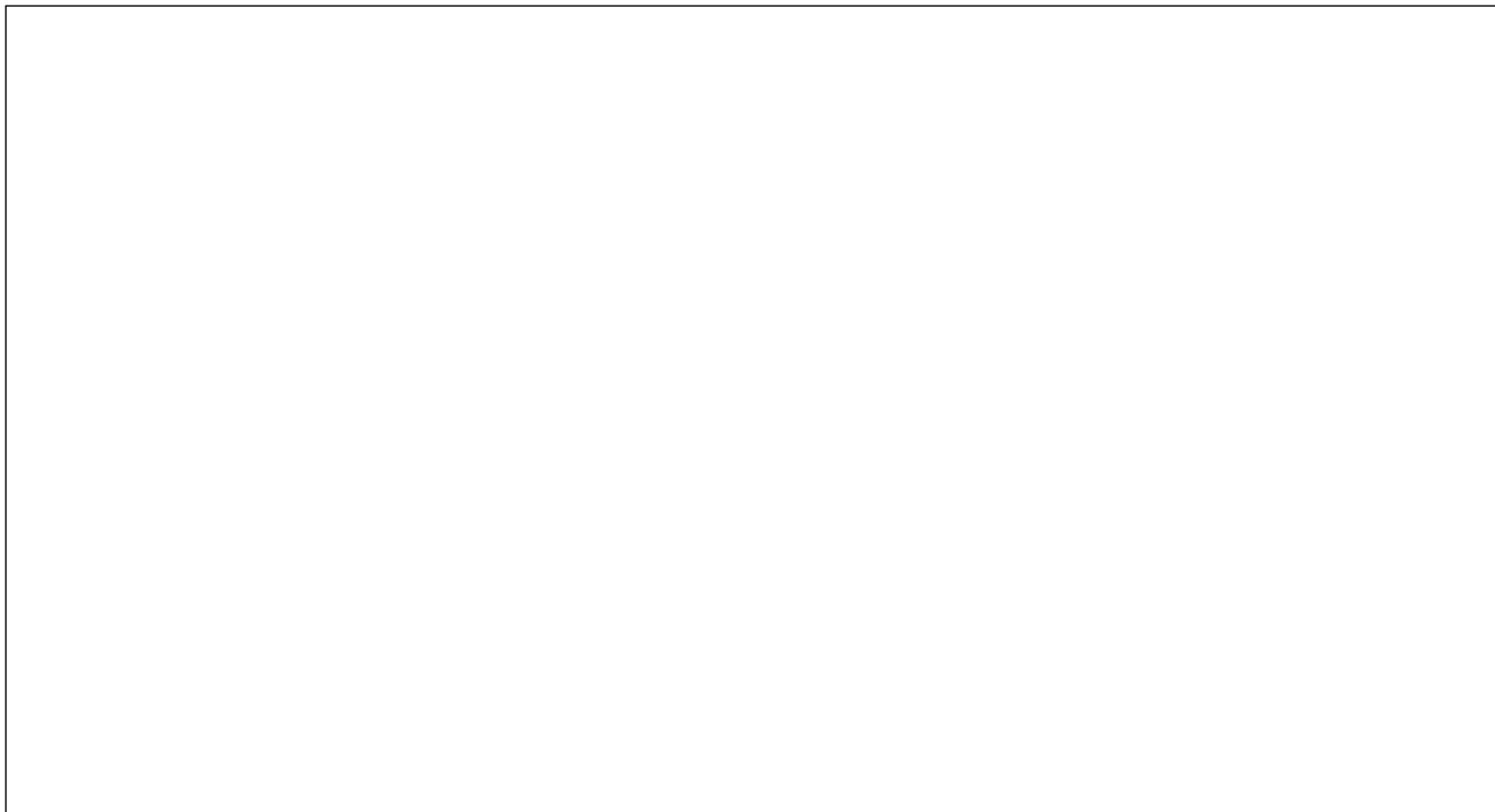
- ② 次は、鼻をつままないで目を閉じたままどんな味がするか表現してください。

例 プリンのような味がする。

- ・グループ内で、各自が感じた食感についてまとめてください。食べた物を確認してください。
その後、 感想を話し合ってください。

テーマ6

次ページの文章を読んで、イメージした絵を描いてください

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for drawing. It occupies the majority of the page below the text.

注) 100 フィートは約 30.5 メートル

「止まれ！」

ボートは停止した。そのとき、何か強烈な光がみんなの目に飛びこんで来た。光は、島の奥深くえぐられた巨大な地下室を照らし出した。

その存在を想像もしなかった洞窟の内部が、いまや彼らの眼前にその全貌を見せていた。

高さ百フィートはある丸天井が、まるでおなじ鑄型でつくったような、何本かの玄武岩の柱で支えられている。側壁もまた、さまざまの形をした何千本という柱でできている。すべて地球の生成期に自然がつくりだしたものだ。積み重なる玄武岩塊の高さは、それぞれ四、五十フィートはあるだろう。柱の底部を浸している水は、外の嵐にもかかわらず、静まり返っている。技師の指し示した強烈な光の帯は、それら柱の一本一本を浮き上がらせ、側壁を明るく照射しては、岩の突起部を宝石のようにきらめかせていた。

光の反射で水面もかがやき、ボートはいまや上下のきらめきの中に浮かんでいた。

一点から洞窟の隅々まで直射し、屈折しているこの明るい光線の正体はいまや明確だった。その白い光から電光であることはまちがいない。それはまさに洞窟の太陽とばかりに、まわりを余すところなく照らしていた。

サイラスの合図で、オールがふたたびおろされた。こんどはきらめくしぶきをあげ、ボートは発光体めがけて突き進んだ。やがて百メートルたらずまで接近した。

このあたりの水路の幅は約三百五十フィートだった。発光体の向こう側に、巨大な玄武岩の壁が見え、行きどまりになっているようだった。空洞はかなり広く、中に小さな湖をたたえているかっこうである。丸天井、まわりの岩壁、その壁を形成する角形・円筒形・円錐形などさまざまの柱、それらすべてが電光を浴びてかがやいていた。あたかも岩がみずから光を発しているかのように、切子に刻まれた高価なダイヤモンドのきらめきにもたとえられよう。

この湖の中央に、何か紡錘状の細長い物体が静止して浮かんでいた。閃光はその物体の脇腹から出ており、発光口は、白熱と燃える熔鉱炉の口さながらである。巨大なクジラにも似たその物体は、二百五十フィートの長さはあるだろう。水面に出ている部分の高さは、十フィートから十二フィートぐらいだ。

ボートをゆっくり近づけた。サイラスは興奮を抑えきれず、舳先に立って食いいるように見つめていた。とつぜん、彼は記者の腕をつかんだ。